アルプス(ALPS)処理水海洋放出反対 署名（オンライン＆署名用紙）推進ニュース

みやぎ生協・コープふくしま
推進事務局　情報発信チーム
発行日　2021/12/28　No. 22

賛同署名総数は 12/27まで	106,010 筆
*オンライン署名	5,639 筆
＊署名用紙署名	100,371 筆

https://www.change.org/Save-the-Ocean-fm

みやぎ生協・コープふくしまは
東京電力福島第一原発事故におけるアルプス処理水の
海洋放出に反対です。反対署名運動へのご協力をお願いします。

オンライ署名は右QRコードで直接　署名サイトへアクセスできます。
★オンライン署名と併せ**署名用紙での署名も行っています。**
HPまたは事務局へお問い合わせ願います。

ホはこちらから

◆東電、原子力規制委員会に審査申請
東京電力福島第一原発処理水の海洋放出に向け、東電は設備設置に関する実施計画の審査を原子力規制委員会に申請しました。地元住民や関係者の心情を無視し、着々と海洋放出に向けて進んでいく様子に恐怖を覚えます。「説明を尽くす」と言っても同じ話の繰り返しでは平行線のままです。10年間続けてきた努力が振り出しに戻りかねない状況に、心がざわざわとうごめき憤りを感じます。

2021/12/24福島民報

理解なき計画先行
東電、規制委に審査申請
国との議論平行線
県漁連、改めて反対示す
官製風評
処理水海洋放出

東京電力福島第一原発処理水の海洋放出に向け、東電が設備設置に関する実施計画の審査を原子力規制委に申請したことに、県内からは処理水の放出計画が具体化すれば風評の上乗せは避けられないとの声が相次ぐ。地元はもちろん、全国的な理解を得られないまま海洋放出への手続きが進めば、「県産品が売れなくなり、観光客や交流人口も減る」との懸念が増している。（2面に関連記事）

いわき市で二十三日に行われた萩生田光一経済産業相と県漁連の野崎哲会長との初会談。「信頼関係を築きたい」と呼び掛けた萩生田氏に対し、野崎氏は「『分かりました』と理解することはできない」と譲らず、処理水の海洋放出に関する議論は平行線に終わった。

野崎氏は「関係者の理解なしには始まらないという約束がありながら、実行せざるを得ないというのは甚だ遺憾だ」として、改めて海洋放出に反対の立場を示した。萩生田氏は「漁業者との信頼関係を築くため、海洋放出の安全性や政府の風評対策など私が先頭に立って説明を尽くしていく」と述べ、従来通りの政府の姿勢を繰り返した。

国と東電は風評対策を講じるとしているが、地元への説得に終始し、全国に放射性物質トリチウムを含んだ処理水の安全性や放出の必要性を訴える姿勢が見えないとの指摘がある。

福島市公設地方卸売市場で海産物の卸売を手掛ける福島丸公執行役員事業部長兼近海部長の山下明彦さん(58)は「処理水が放出されれば魚の買い控えが進むのは目に見えている」と言い切る。本県沖で水揚げされた魚介類の鮮度やおいしさを知ってもらおうと、市場関係者と連携して定期的に「市場まつり」を開催してきた。ここ二年はコロナ禍で開催を見送ったが、来年は再開させる計画。地道な販促活動が功を奏し、スーパーや魚店、飲食店などで地元産魚介類の買い控えや価格の下落といった苦い経験が頭をよぎる。「広がりつつある魚の流通を止めたくない」と切望し「国や東電は市場に足を運んで現場の意見をくみ取り、より良い方策を打ち出してほしい」と求めた。

処理水放出に向けた動きで県産牛の販路への影響を気に掛ける鈴木さん＝23日、塙

畜産業者
「安全性アピールを」

塙町片貝で畜産業を営むベルファーム社長の鈴木立樹さん(36)は「処理水放出の動きが加速する中で『福島牛』の復活にブレーキがかかるのでは」と危惧する。

原発事故発生後、風評に耐え、品質の良さをアピールしながら地道に販路を広げてきた。今年六月にはマレーシアへの輸出も始めた。販路拡大に手応えを感じているだけに、処理水の海洋放出に伴う風評の上乗せへの懸念が深まる。

農林水産省の調査によると、県産和牛の平均価格は二〇一九年度の時点で、全国平均を10・8％下回っている。同社は肥育牛と繁殖牛合わせて約千頭を飼育しており、神戸市や東京都の食肉市場に出荷している。鈴木さんは「特に都内では風評がいまだに残っており、価格は他県産に比べて一割ほど安い」と現状を語る。

「処理水放出をやみくもに反対しているわけではない。ただ、処理水の安全性を国内外にもっとアピールし、理解を深めてもらう必要があるのでは」。放出を急ぎ、淡々と手続きを進める東電の姿勢に疑問を呈する。国と東電に「誰もが納得できる手順を踏んだ上で、話を進めてほしい」と求めた。

◆風評の上乗せ懸念
福島県外の方からすると浜通りも中通りも会津もみんな同じ「福島」です。原発事故後、風評被害を経験しているからこそ募る不安。漁業だけでなく産業全体が影響を受ける可能性があります。海洋放出は浜通りだけの問題ではなく、福島だけの問題でもありません。国民みんなの課題として、自分事として向き合わなければならない問題です。

2021/12/24福島民報

風評の上乗せ懸念
浜通りだけでない
会津の食品加工製造・販売業者
国の動向注視
浜通りの観光・宿泊業者

さらなる風評を懸念するとともに国や東電の姿勢に疑問を投げ掛ける室井さん＝23日、南会津町

東京電力福島第一原発から遠く離れた会津地方からも処理水の海洋放出に伴う影響を危惧する声が上がる。

「放出が始まったら『福島のものは何となく危ない』というイメージがまた広まるのではないか」。南会津町でキノコや山菜の加工品などを製造・販売する会津物産社長の室井一雄さん(六五)は懸念する。

原発事故から十年余が経過しても売り上げは事故前の水準の半分ほどにとどまる。事故以降、風評被害を少しでも減らそうと、原料に使用する県外産の割合を増やしてきた。だが、県外の消費者にとっては、原発から直線距離で約百十五㌔も離れている同町も同じ原発事故の被災地「福島県」であり、風評の影響は根深い―と感じている。

地元の理解を得ないうちから放出ありきで準備を進める国や東電の姿勢に疑問を抱く。「海洋放出で影響を受けるのは浜通りの漁業者だけではない。国や東電は会津地方でも説明する機会を設けてほしい」と語気を強めた。

震災、原発事故に加え、新型コロナウイルスの影響を大きく受けている観光・宿泊業者らも処理水を巡る動きを注視する。

いわき市のいわき湯本温泉旅館協同組合によると、年末年始の宿泊客の入り込みは政府の観光支援事業「Go To トラベル」があった昨年冬と同程度まで持ち直している。新型コロナの流行が落ち着き、県民限定の宿泊補助事業「県民割プラス」も後押しになっている。

宿泊業界が回復傾向にある中、関係者には海洋放出に向けた手続きが進められることで観光客が減少しかねないとの懸念がある。組合理事長の薄羽裕一さん(五二)＝ホテルいづみや社長＝は「放出に向けた動きは、明らかにプラスにはならない」と表情を曇らせ、観光業界への継続的な支援を国などに求めた。

南相馬市原町区の北泉海水浴場は二〇一九（令和元）年七月、九年ぶりに海開きした。昨年と今年はコロナの影響を受けたが、相双地区を代表する海水浴場の一つとしてにぎわいを見せる。シーズン

◆2021年もあとわずか…・大変お世話になりました。ありがとございます。
コロナウイルス感染症により、人と人とのつながりが希薄になった世の中。計らずも「ALPS処理水海洋放出に反対する署名」をスタートしたことで、全国生協のみなさま、他団体のみなさまとのおつきあいが深まり、関わりが強固になったと感じています。コロナ禍においても「つながっている」という感覚を常に感じながら署名運動を推進することができたましたこと、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。新年を迎えた後も署名運動は続きますので、引き続きご協力いただければ幸いです。みなさまどうぞ良いお年をお迎えください。2022年もよろしくお願いいたします。

＜情報・お問い合わせ先＞
みやぎ生協・コープふくしま　ふくしま県本部内
「アルプス（ALPS）処理水海洋放出に反対する署名」推進事務局
〒960－8566　福島県福島市森合字清水7番地　　コープふくしま　いずみ店2F
TEL024－557－1181　FAX557－5359＊mail :sn.f10243sn@todock.coop (根本)

＜編集後記＞erikoのつぶやき
今年もたくさんの新しい出会いがありました。続くコロナ禍の影響で思うように動けず、懐かしい再会は果たせないことが多かったですが、振り返れば今年も出会いに恵まれた1年でした。基本的に『一回会ったら友達』認識の編集者。とにかく人が好きです。新しい出会いの中にはオンラインのみでリアルにお会いできていなかったり、マスク着用のみで素顔が分からなかったりと色々…
気兼ねなく会える世の中になったときのお楽しみですね。
今年出会ったみなさま心からありがとうございました。
今年出会えなかったみなさん、来年以降お会いしましょう！